

今回は、「ESD for 2030」TOKAIプロジェクト 岐阜研修会の活動報告です。

## ◇ 生徒代表と研究推進部教員が、探究活動の発表を行いました！

日時： 令和5年1月8日（日）  
場所： じゅうろくプラザ（岐阜市橋本町1丁目10-11）  
主催： 愛知教育大学  
連携： 岐阜大学 愛知教育大学  
趣旨： 文部科学省補助事業「SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」

開会あいさつに続き、愛知教育大学地域連携センター長の大鹿聖公教授による「新学習指導要領におけるESDとユネスコスクール」と題したミニ講義が行われました。

続いて、岐阜県における探究活動の実践事例紹介として、本校の永田英之教諭が「関高等学校における探究活動の取り組み」を、生徒代表4名が「ほらどキウイを未来につなごう！プロジェクトに関わる活動」を報告しました。

永田教諭の実践報告に関しては、「地域と連携した探究活動の好事例」であるとの評価をいただきました。生徒の発表に関しては、「高校生の生徒さんたち自らが自発的に活動に取り組んでいる様子がかげえ、わかりやすく説得力のある素晴らしい発表」であると評価していただきました。本校の活動の特徴は、教育活動の一環であると同時に、地域と連携したまちづくりの中に位置づけられていることにあります。発表と講評を通じ、協力していただける地域の皆様への感謝の念をあらたにしました。

次に、愛知県におけるESDの授業展開等について、小牧市立篠岡小学校の石川敬祐教諭、名古屋市立丸の内中学校の坪井大知教諭、本学教職大学院の竹内真紀さんから、それぞれ発表がありました。



小中高の探究活動事例報告の最後に、岐阜大学の巽徹教授から事例発表に対する講評があり、「どの発表もつながりという言葉がキーワードであり、地域や社会とつながることで学び、刺激を受け、つながりを追求することが、ESD活動を広げていき、その先にSDGsを達成するための手立てが見えてくるのではないか」とのコメントを述べられました。

休憩時間をはさんで、後半は、会場にいる参加者全員が3つのグループに分かれてグループ討議を行い、これからのESDの活動のさらなる充実に向け、互いの取り組みについて質問しあい、ESD活動に取り組む中で難しいと感じることなど、共通の悩みについて話し合いました。

グループ討議には本校生徒も参加しました。小中高大の教員、大学院生に交じって、質疑に応じ、さらに進んで自身の意見を述べるなど、積極的な姿勢が見られました。他校の教員や大学院生の方からは、関高校の探究活動に関する具体的な質問が相次ぎました。

最後に、岐阜大学の巽教授から「ESDの下地となる部分やESDについて考える材料を子どもたちに平等に与えることが必要であり、小学校、中学校、高等学校、そして大学へとバトンを渡しながらか、花開くまでの成長過程をみんなで見つめる、こういった機会をぜひ生かしてほしい」との総括がありました。

小中高大の教員、教員を目指す大学院生、現役の高校生が一堂に会し、虚心坦懐、意見を述べ合うという、今までにない会となりました。巽教授の指摘にある通り、「つながり」を生むよい機会であったと考えます。